

# 西田小の研究

## 1 研究テーマ

「確かな学力」を身に付けさせる学習指導

～子どもが主体的に読みに関わる授業及び環境づくり～

## 2 研究テーマ設定の理由

子ども一人一人に「生きる力」を育むためには「確かな学力」を身に付けさせることが不可欠である。そこで、当校の子どもの実態やこれまでの研究実践等を踏まえ、研究テーマを下記のように設定した。

子どもの実態から

- 漢字力や計算力などの基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の必要性
- 既習事項を生かしながら自分の思いや考えなどを豊かに表現することができる子どもを育てる必要性
- 学校と家庭が連携を図りながら学習習慣を身につけさせる必要性

これまでの研究実践から

- 子どもの学ぶ意欲を大切に学習指導の充実を図る必要性
- 子どもが自分なりの課題を主体的に解決していくことができる学習指導を充実する必要性
- 指導と評価の一体化を目指した授業改善の必要性

「確かな学力」を身に付けさせる学習指導

～子どもが主体的に読みに関わる授業及び環境づくり～

教育行政の重点から

- 心の教育の充実を図る必要性
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る学習指導を充実する必要性
- 特色ある学校づくりを推進する必要性
- 情報教育の充実を図る必要性
- 体力の向上を目指した教育活動の充実を図る必要性

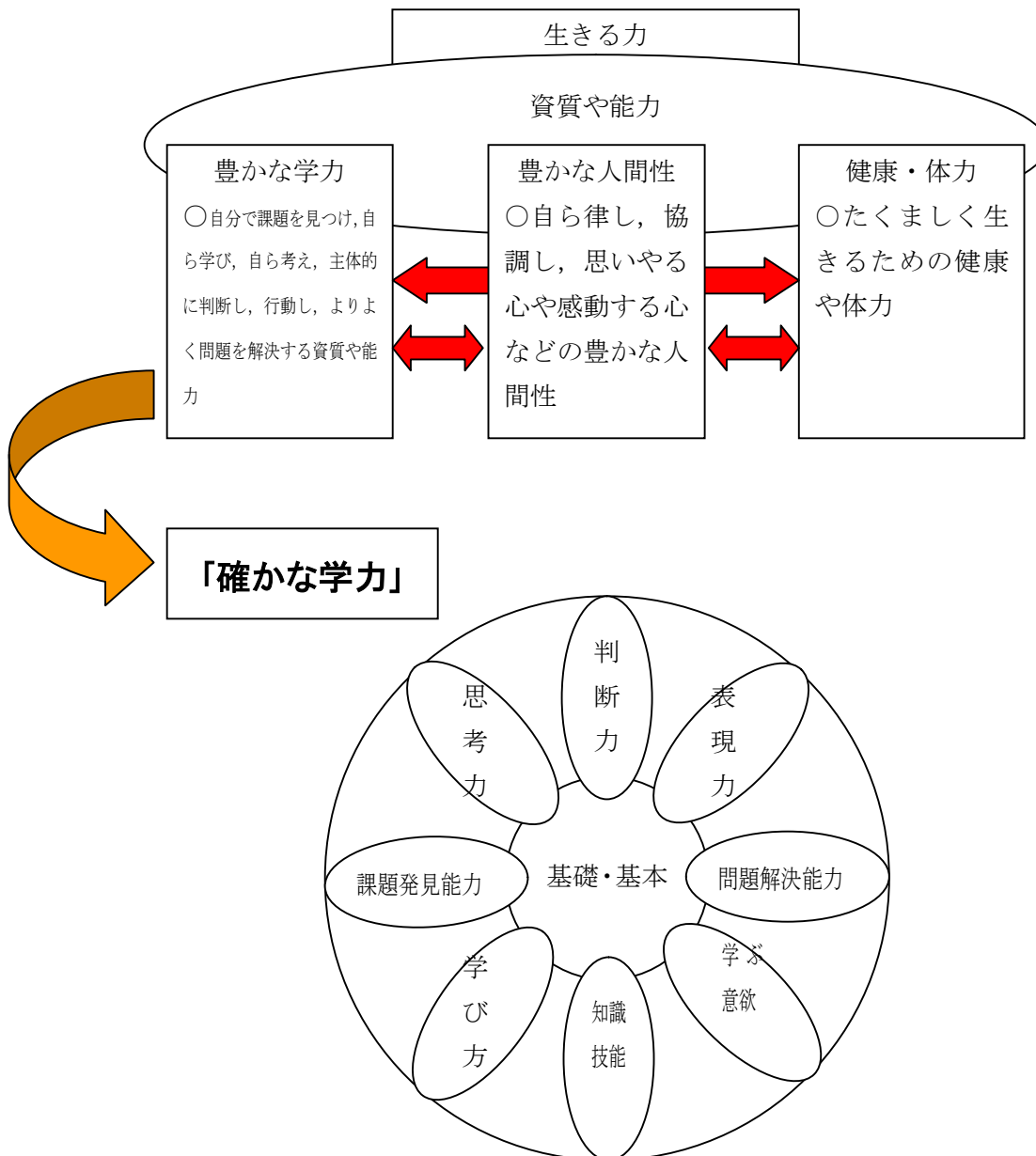
今日的な教育の動向から

- 基礎・基本の徹底を図る必要性
- 個に応じた指導の充実を図る必要性
- 豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力を育むための教育を充実する必要性
- 総合的な学習の時間の充実を図る必要性

### 3 研究テーマについて

#### (1) 「確かな学力」とは

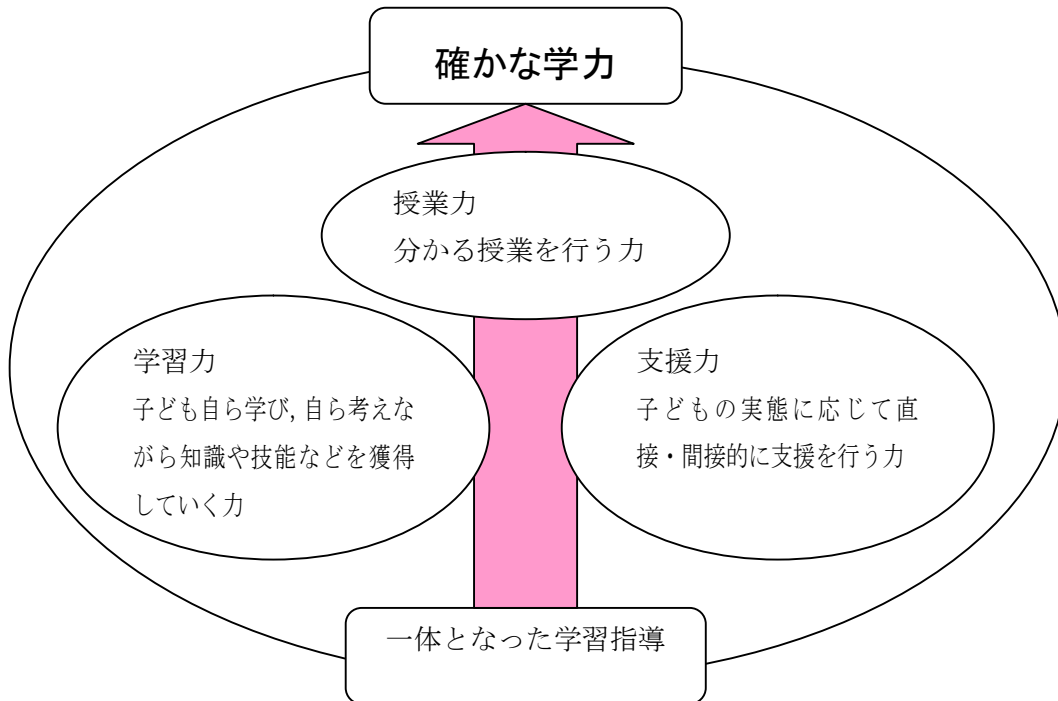
「確かな学力」は、基礎的・基本的な知識や技能だけでなく、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力、問題解決能力などまでを含めた学力である。今日の教育に求められているのは、子どもたちに、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力、自ら律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」を育むことである。「確かな学力」は「生きる力」の基盤の一つであり、本研究テーマを追求することによって子ども一人一人に「生きる力」を育むことができると考える。



#### (2) 「確かな学力」を身に付けさせる学習指導とは

教育課程はまさに基礎的・基本的な教育内容を系統的・発展的に編成してある。また、年間指導計画は、教育課程に基づき、各単元の指導の目標やねらい、教材、学習活動、学習形態、指導体制、評価計画などが具体的に示されている。日々の学習指導は、これらに基づき子どもの実態や学習状況に応じながら、創

意工夫を加えて実施される。このように、教育課程に基づき、年間指導計画に即して、教師の分かる授業を行う力（授業力）や子どもが自ら学び、自ら考えながら知識や技能などを獲得していく力（学習力）、子どもの実態に応じて直接・間接的に支援を行う力（支援力）が一体となった学習指導を地道に積み上げることによって子ども一人一人に「確かな学力」を身に付けさせることができると考える。



### (3) 読みの指導について

昨年度までの研究を通して次のような課題が浮かび上がってきた。

国語は「確かな学力」の主要教科であり、読む力が全ての教科につながるので、引き続き国語の研究を進める必要がある。

また、昨年度までの研究を実践する中で、どのような評価をおこなえばより深まりのある「読み」をさせることができるか、PISA型の評価とはどのようにあるべきか。

これらの課題から、「確かな学力」を身に付けさせていくためには、国語科の「読むこと」の指導の充実を引き続き図ること・またその評価はどうあるべきかをこと探求することが必要であると考えた。

そこで、本年度は今までの研究の実践化を図るとともに、具体的に取り組むなかでその評価についてこととし、昨年までと同様にブテーマに「子どもが主体的に読みに関わる授業及び環境づくり」を掲げ、研究を進めることにした。

学習指導要領では、国語科の最も基本的な目標である国語による表現力と理解力とを育成するとともに、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成を重視して、新たに「伝え合う力を高める」ことを目標に位置づけている。また、新学習指導要領では、「言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実させること」に配慮するよう示されている。このことから「読むこと」の特性を生かしながら児童主体の言語活動を活発にし、言語の教育としての国語科の目標を実現する必要がある。

本校は、平成18年度から国語科を研究教科に取り上げ、「国語科における読みの指導」をサブテーマとして研究に取り組んできた。授業における指導法・家庭での学習への取り組み方・校内の学習環境整備を大きな柱として研究を積み上げてきた。昨年度から取り組んでいる「子どもが主体的に読みに関わる授業及び環境づくり」の研究では、これまで積み上げてきた研究をもとに計画し、実践・評価・改善の中でさらに充実した取り組みをしていくこととした。

#### 4 研究の視点

子ども一人一人に、「確かな学力」を身に付けさせるためには、授業力や学習力、支援力が一体となった学習指導を展開することが重要であると考えます。そこで、3つの視点について研究し、実践化を進めていく。

〈視点1〉

教材を正確に読み取るための指導方法を工夫すれば、読みの力がつくのではないかと。

研究内容

- ・ PISA型読解力の育成を目指した授業実践
- ・ 参観の視点を明確にし、全学年の授業に生かせる研究授業の実践
- ・ これまで作成した発問集の評価規準の作成
- ・ 本校の「身につけさせたい読みの力」に関する資料の提供と授業での実践

〈視点2〉

家庭での国語の学習の仕方が分かれば、子ども自ら国語学習に取り組む、読みの力を身につけることができるのではないかと。

研究内容

- ・ 家庭学習の手引きの改善と活用
- ・ 読みの力を高める家庭学習の在り方
- ・ 音読カードを活用した音読活動の実践

〈視点3〉

学校内の学習環境を整備すれば、学習活動全体において読みの力を育成できるのではないかと。

研究内容

- ・ 発達段階に応じた学習のしつけ表の作成・活用
- ・ 学校内外の学習環境の整備（設営、朝の活動、学級文庫、図書館利用、漢字学習）
- ・ 教科書教材に関連した図書を収集し、子どもの読書活動を広げる工夫。

#### 5 研究計画

各研究部の昨年度までの取り組みを基に研究を進め、計画・実践・評価・改善の流れで実践計画を立てる。研究は3年計画で行い、21年度は昨年度の研究を実践し、22年度は実践を評価・改善しながらこれま

でのまとめを行う。

年度	21年度（一年次）	22年度（二年次）	23年度（三年次）
研究	計画 → 実践 →	評価・改善 → 実践 →	評価・改善・実践 → まとめ

各年度の研究内容

平成20年度			
部	授業力研究部会	学習力研究部会	支援力研究部会
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法を工夫した研究授業での検証</li> <li>資料提供及び活用の推進</li> <li>学力検査の分析を生かした授業作りの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習の手引き」の内容の改善</li> <li>音読カードの作成及び活用</li> <li>各手引きの整理と管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のしつけの改善（チェック表等の見直し）</li> <li>学習環境の整備（教室の学習環境）</li> </ul>

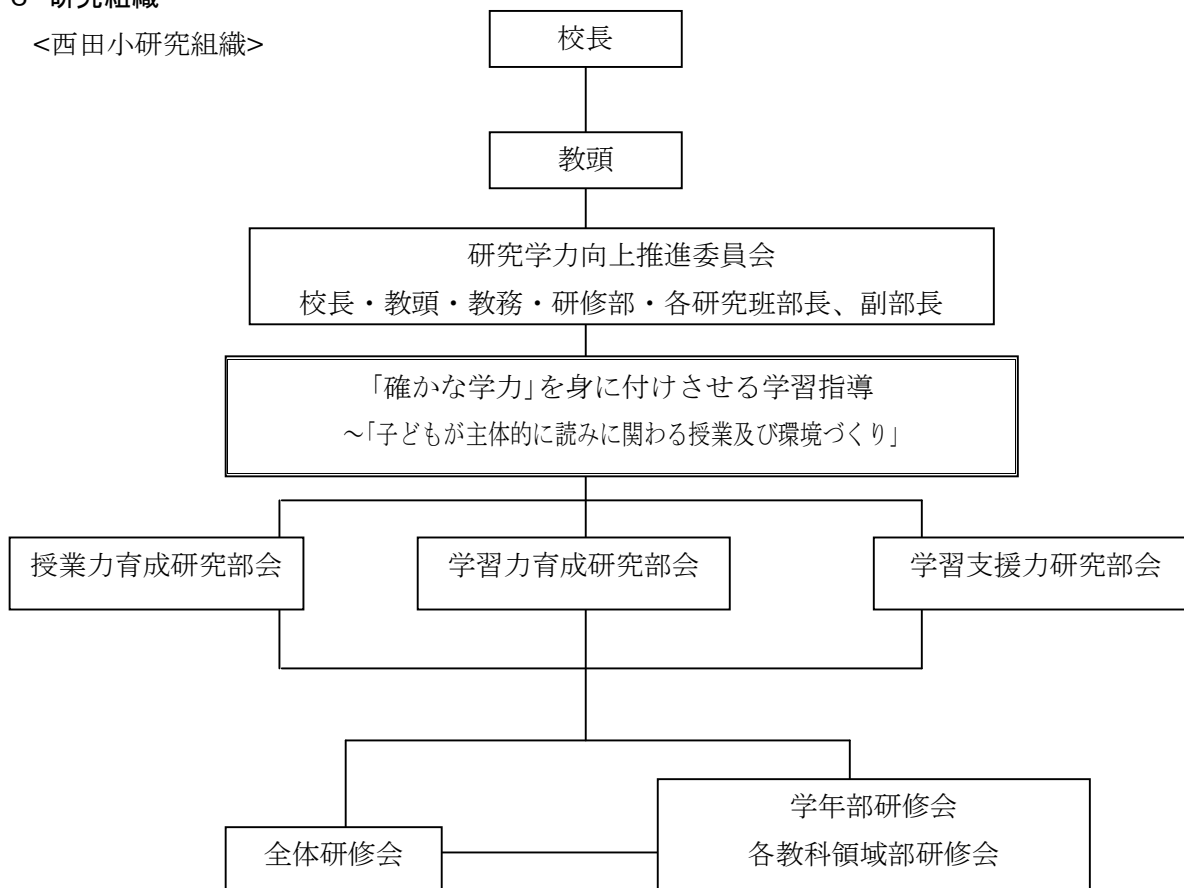
(1) 平成21年度（一年次案）			
部	授業力研究部会	学習力研究部会	支援力研究部会
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科におけるPISA型読解力の理論研究及び授業実践（物語的教材）</li> <li>学力検査の結果を生かした授業の展開</li> <li>授業を通した研究の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手引きの活用とその効果についての調査</li> <li>手引きの内容について検討と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チェック表」や「声のもののさし」の活用</li> <li>漢字学習用教材の開発</li> <li>辞書辞典の設置</li> </ul>

(2) 平成22年度（二年次案）			
部	授業力研究部会	学習力研究部会	支援力研究部会
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科におけるPISA型読解力の理論研究及び授業実践（説明的教材）</li> <li>授業を通した研究の検証</li> <li>PISA型発問集の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手引きの活用とその効果についての調査</li> <li>手引きの内容について検討と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チェック表」や「声のもののさし」の活用</li> <li>辞書辞典の設置</li> <li>授業で扱う教材の関連図書の収集と活用</li> </ul>

(3) 平成23年度（三年次案）			
部	授業力研究部会	学習力研究部会	支援力研究部会
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科におけるPISA型読解力の理論研究及び授業実践</li> <li>評価規準の作成とその実践</li> <li>授業を通した研究の検証</li> <li>PISA型発問集の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手引きの活用とその効果についての調査</li> <li>手引きの内容について検討と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チェック表」や「声のもののさし」の活用</li> <li>辞書辞典の設置</li> <li>授業で扱う教材の関連図書の収集と活用</li> </ul>

## 6 研究組織

<西田小研究組織>



# 研究授業に向けての取り組み

## 1 研究の視点

教材を正確に読み取るための指導方法を工夫すれば、読みの力がつくのではないか。

## 2 研究の内容

上記の視点である「正確に読み取る」ために、本年度はPISA型読解力に焦点をあて、特に「文学教材」を中心に以下6つの柱を立て研究を深めていくことにした。

### (1) PISA型読解力の理論研究及び授業実践

#### ア PISA型読解力の定義

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

つまり、単に文章を読解するだけでなく、それを基にして考える、そして社会に参加する。そのために求められる力として位置づけている。

#### イ 読解力の観点

- ① 情報の取り出し ～ 書かれていることを取り上げること。
- ② テキストの解釈 ～ 書かれた情報から推論して、意味を理解すること。
- ③ 熟考・評価 ～ 書かれた情報を自らの知識や経験に位置づけること。

#### ウ 国語科におけるPISA型読解力

- ① PISA型で正確に読み取るということは  
読んだことを根拠にすること
- ② 情報の取り出しとは  
本文中に書いてある情報を正確に取り出す、つまりこれまでの国語での読解のこと
- ③ 解釈とは  
何が書いてあるのか考えること、つまり推論すること。ただし「本文中に書いてあること」を推論の根拠にさせる。
- ④ 熟考・評価とは  
文章をよく読んで、自分の体験や知識と結びつけて、自分の意見を述べること。つまり自分だけの意見をもつこと。ただし「本文中に書いてあること」を意見の根拠にさせる。そして、このような意見をもつためには「クリティカルリーディング」の育成が必要である。

#### エ 視点を検証するための研究授業

#### オ 検証授業を受けた授業実践記録

検証授業を日々の授業に生かすため、各学年の「説明的教材」の授業において、PISA型読解力を深める発問を具体的に考え、実践し子どもの反応を記録していく。

## カ PISA型発問集の作成

上記の授業実践をまとめ、PISA型発問集を作成する。

### 3 目指す子ども像（説明的文章編）

#### ① PISA型の「解釈」における目指す子ども像

##### 1・2年

時間や事柄の順序などを考えながら本文の大体を読み取ったうえで、内容や筆者の意図を考えることができる子ども。

##### 3・4年

中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えてうえで、内容や筆者の意図を考えることができる子ども

##### 5・6年

要旨をとらえたり事実と感想、意見などとの関係を押さえたうえで、自分の考えを明確にしたりしたうえで、内容や筆者の意図を考えることができる子ども

#### ② 「熟考・評価」における目指す子ども像

##### 1・2年

内容について理解したうえで、自分なりの思いや考えを表現できる子ども。

##### 3・4年

内容について理解したうえで、自分なりの思いや考えを表現し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく子ども。

##### 5・6年

内容について理解したうえで、自分なりの思いや考えを表現し、考えを広げたり深めたりすることができる子ども。

### 4 研究の実際

#### (1) 研究授業の視点

PISA型読解力の観点を意識した発問を工夫すれば、教材を深く読みとったり、自分の意見や考えを表現したりすることができるのではないか。

#### ○ 解釈を深める検証授業

6月27日 4学年「一つの花」

指導者 北原 一弘

#### ○ 熟考・評価を深める検証授業

10月24日 3学年「ちいちゃんのかげおくり」

指導者 永樂 朋彦

## 5 指導案

# 第4学年国語科学習指導案

平成23年 6月27日 (月) 5校時  
4年2組 男子16人 女子14人 計30人  
指導者 北原 一弘

1 単元名 物語を読んでしょうかいしよう (教材名 「一つの花」 光村図書 上 )

2 単元の指導計画 (「PISA型読解力」の観点から)

### 学級活動 (1時)

- ・戦争下の人々の生活の様子について写真や映像を利用しながら学ぶ。

#### 第1次 (1・2時) ……「情報の取り出し」の段階

- (1時)
- ・戦争について知っていることを語り合う。
  - ・単元の終わりに「平和」について書かれた本を紹介する読書会をすることを知らせる。
  - ・これからの学習の流れについて確かめる。
  - ・「一つの花」の範読を聞き、初発の感想をまとめる。
  - ・新出漢字の確認と練習をする。

- (2時)
- ・全文を読む (音読)。
  - ・1, 2の場面と3の場面の違いについてとらえる。  
発問 〈小さいときのゆみ子と10年後のゆみ子の生活をまとめてみよう〉
  - ・戦争の頃の生活について知る。

#### 第2次 (3・4時) ……「解釈」の段階

- (3時)
- ・音読をする (～P65L6)。
  - ・両親の気持ちについて考える。  
発問① 〈ゆみ子の「一つだけ」という言葉をお父さんとお母さんはどう思っているのでしょうか。〉  
発問② 〈お父さんは高い高いをしながら、どんなことを考えていたのでしょうか。〉
  - ・班や全体で話し合う (本文に書いてあることを根拠にしながら)。

- (4時)
- ・音読をする (P66L1～P70L5)
  - ・戦争に行くお父さんの気持ちについて考える。  
発問① 〈お父さんがわたした一輪のコスモスの花には、お父さんのど

んな思いや願いが込められていたのでしょうか。)

発問② 〈なぜ作者は、この物語に「一つの花」という題名をつけたのでしょうか。〉

第3次 (5・6時) ……「熟考、評価」の段階

(5時) ・音読をする (P70L6～)。

・「一つの花」の続編を書く。

発問 〈作者になったつもりで、( )年後のゆみ子の様子を想像しながら「一つの花」の続きを書きましょう。〉

※ 「P〇の……というところからゆみ子はこういう人になったのだと思い、こういう話にしました。」のように本文の内容を根拠に想像させ、書かせるようにする。また、戦争に対する考えも取り入れた文にさせる。

(6時) ・音読をする (P70L6～)。

・5時で作った「一つの花・続編」の発表会をする。

第4次 (7・8時) ……「発展」の段階

(7時) ・「平和」をテーマにした本を紹介し合う。

(8時) ・単元の学習を振り返り、考えたことをまとめる。

### 3 本時 (3/8)

#### (1) 目標

○ ゆみ子の将来について案ずる両親の思いを、本文の言葉や文を根拠に考え、文章にまとめることができる。

#### (2) 展開

過程	主な学習活動	時間	教師の支援・指導上の留意点
つかむ	1 前時の学習について想起する。 ・戦争中のゆみ子たちの生活について振り返る。	3	○戦争中のゆみ子たちの生活と10年後の生活のについて、前時に確認したことを掲示しておく。
見通	2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お父さんやお母さんは、ゆみ子のことをどう思っていたのでしょうか。</div>	7	○めあてを読んだり、書いたりして本時の見通しを持たせる。

す	<p>・ワークシートにめあてを書く。</p> <p>3 音読（全員読み）をする。 （～P 6 5 L 6）</p>		<p>○本時の中心場面を音読させる。</p>
調べる・読み取る	<p>4 「一つだけ」という言葉に対するお父さんやお母さんの思いについて考える。</p> <p>発問①</p> <div data-bbox="193 622 679 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゆみ子のおぼえた「一つだけ」という言葉をお父さんやお母さんはどう思っているのでしょうか。</p> </div> <p>(1) お父さんやお母さんの思いを考える際に、考えの手がかりになりそうな文に線を引く。</p> <p>(2) 線を引いた部分について発表し合う。</p> <p>(3) 全員で確認したものの中から、自分が最も根拠にしたいものを選び、ワークシートに記入する。</p> <p>(4) 選んだものを根拠に、自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>(5) まとめたことについて発表し合う。</p>	20	<p>○児童が学習の流れを理解しやすいように、「根拠になる部分の取り出し」→「考えのまとめ」の形式で作成したワークシートを利用させる。</p> <p>○留意させたい表現</p> <div data-bbox="783 672 1240 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>母 「何てかわいそうな子でしょうね。」</p> <p>父 深いため息をついて言いました。</p> <p>「一生、両手を出すことを知らずにすごすかもしれないね。</p> <p>「一つだけの喜びさ。いや、喜びなんて、一つだってもらえないかもしれないんだね。」</p> <p>「いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。」</p> <p>めちゃくちゃに高い高いをするのでした。</p> </div> <p>○2時で学習した戦争中と10年後の生活の様子の違いについてまとめたものを掲示するなどして、戦争下の状況であることをしっかり押さえた上で考えさせる。</p> <p>○予想される児童の反応（発問①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもおなかをすかせていて、「一つだけちょうだい。」が口ぐせになってしまったゆみ子をかわいそうに思っています。</li> <li>・これから先、ゆみ子には幸せな日々がやってくるのか心配しています。</li> </ul>

<p>深める</p>	<p>5 高い高いをするお父さんの思いや願いについて考える。</p> <p>発問②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> </div> <p>(1) 自分の考えおよびその手がかりとなる部分についてワークシートにまとめる。</p> <p>(2) 考えを発表し合う。</p>	<p>10</p>	<p>○予想される児童の反応（発問②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何もしてあげられないけれど、せめてゆみ子を喜ばせてあげようと思って、お父さんはゆみ子を高い高いするのだと思います。</li> <li>・戦争の時代に生まれたゆみ子がこれからどんな大人にそだっていくのかとても心配しています。</li> <li>・ゆみ子に対して、何かしてあげたいけれども何もしてあげられないとくやしく思っています。</li> </ul> <p>○自分の考えを発表させる際には、「根拠にした部分」→「自分の考え」の形で行わせる。</p>
<p>広げる</p>	<p>6 本時の学習について振り返りながら目読する。</p> <p>7 次時の学習を知る。</p>	<p>5</p>	<p>○本時の学習について教師と一緒に確認させた後、黙読させる。</p> <p>○本時の学習の感想を発表させる。</p>

(3) 評価

- 両親の思いについて、本文の言葉や文を根拠に考え、文章にまとめることができたか。

## 第3学年 国語科学習指導案

平成23年10月24日（月） 5校時  
 3年1組 男子11名 女子17名 計28名  
 指導者 永樂 朋彦

1 単元名 物語の感想をまとめよう

(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書 下)

## 2 単元目標

- 場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。
- 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。
- 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

## 3 単元の指導計画（「PISA型読解力」の観点から）

### 第1次（1・2時）・・・「初発の感想をもつ」段階

- （1時）
  - ・新出漢字の確認と練習をする。
  - ・扉の詩を読み、広がる青空を想像する。（自分の想像する青空を絵にする。）
- （2時）
  - ・「ちいちゃんのかげおくり」の範読を聞き、どの場面に心を打たれたかなど、初発の感想をまとめる。  
**「どこが心に残りましたか？」**
  - ・グループごとに感想の交流をし、学習課題「場面の移り変わりをとらえて、物語の感想をまとめよう」を設定して学習計画を立てる。

### 第2次（3・4時）・・・「情報の取出し」の段階

- （3時）
  - ・二つの「かげおくり」の同じところ、違うところを比べて書き出す。  
**「家族4人でのかげおくりとちいちゃん一人のかげおくりでは、どんな違いがあるのだろうか？」**
- （4時）
  - ・22ページの「言葉」を読み、言葉のバリエーション（言いました：つぶやきました、聞き返しました 見る：見上げる、目を落とす、見つめる等）の違うものを書き出す。**→様子の違いを想像する。**

### 第3次（5～7時）・・・「解釈」の段階

- （5時）
  - ・二つの「かげおくり」の間の場面の移り変わりを出来事や人物の行動、情景からとらえる。  
**「一人ぼっちのちいちゃんはなぜ焼け落ちた家に残っていたのでしょうか？」**
- （6時）
  - ・本文中に書いてあることをもとに、自分の生活や見聞体験、本などから得た知識を結びつけて、戦争で失われていったものを文章にまとめる。**（ちいちゃんの人生に寄り添い、共感し、戦争の悲惨さや理不尽さを認識し、平和を希求する強い思いを育む。）**  
**「戦争でちいちゃんから失われていったのはなんだと思いますか？」**
- （7時）
  - ・本文中に書いてあることをもとに、自分の生活や見聞体験、本などから得た知識を結びつけて、平和の大切さとそれを守ることの尊さを文章にまとめる。**（現代に生きる者として、平和の大切さとそれを守ることの尊さを育む。）**

「4の場面までと5の場面を比べて、どんな感想をもちましたか？」

第4次（8時）・・・「熟考・評価」の段階（本時）

- （8時） ・本文中に書いてあることをもとに、作者の考えと比べながら、自分の考えでむすびの文章を考える。

「5の場面を自分だったらどのように書きますか？」

第5次（9～11時）

- （9時） ・感想文の書き方を知る。
- 〈書きだしのれい〉や〈むすびのれい〉を読んで、「はじめ」と「おわり」の書き方の工夫の仕方を知る。
  - 本文の引用や要約の仕方を知る。
- （10・11時） ・一番心を打たれた場面を中心に、心を打たれた理由と一緒に感想文を書く。

第6次（12時）

- （12時） ・感想文を読み合い、考え方の違いや書き方の違いについて交流する。

4 本 時（8／11）

(1) 目 標

- これまでの学習や本文中に書いてあることをもとに、自分の生活や見聞体験、本などから得た知識を結びつけて、自分が考えた終末を文章にまとめることができる。
- 友達と意見の交流をし、違いを比べたりよさを見つけたりすることができる。

(2) 展 開

次ページ参照

過程	主な学習活動	時間	教師の支援・指導上の留意点
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。	3	○ 4と5の場面を比べ、ちいちゃんのいた世界と今の世界の違いをつかませる。
見通す	2 めあてを確認する。 ちいちゃんが無くなった後の続きを書こ	2	○ めあてを読んだり、書いたりして、本時の見通しをもたせる。

調べる・読み取る	<p>3 書くときの視点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① これまで学習したことを生かして書こう。          ② 教科書に書いてあることをもとにして、書こう。          ③ 自分でよく考えて書こう。</p> </div> <p>4 自分の考えを文章にまとめる。          ≪予想される児童の文章≫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日、2011年10月24日曜日。ぼくは、ちいちゃんが空へと消えていった場所に来ている。そして、ちいちゃんと同じようにかげおくりをしてみた。              (かげおくり, 空にきえました等)</li> <li>・ それから何十年。ちいちゃんのいなくなった場所は今はきれいなコスモスの花がたくさん咲いている。そして、ちいちゃんは今もまだここで家族4人でかげおくりをしている。              (空色の花ばたけ等)</li> <li>・ それから何十年。ちいちゃんのいなくなった場所では、きれいな青空の下、元気な声がひびいている。だけど、遠い国ではちいちゃんと同じように悲しみの中消えていく子がたくさんいるという。なぜ戦争はなくなるのだろうか…              (5の場面, 今の生活等)</li> <li>・ ちいちゃんへ。ぼくの住む世界はすごく平和になったよ。ちいちゃんがなくなったところも公園になったんだよ。この平和な世界をぼくたちが必ず守っていくからね。              (ちいちゃんへの思い, 今の生活等)</li> </ul> </div> <p>○ 考えの手がかりになる文を書きだす。</p> <p>○ これまでの学習をもとに、自分の生活や見聞体験、本などから得た知識を結びつけて、文章にまとめる。</p> <p>5 友達と書いたものを読み合い、違いを比べたり、よさを見つけたりする。</p>	<p>2</p> <p>○ 書くときの視点を明確にするため、視点を書いた短冊を板書する。</p> <p>○ 児童の実態に合わせるため、「根拠になる部分の取出し」と「考えのまとめ」を書くワークシートを用意する。</p> <p>○ どちらから書いてもよいようにさせる。</p> <p>1 3 ○ 本文に書いてあることだけでなく、「自分の生活や見聞体験、本などから得た知識とむすびつけ」させることにより、今の自分たちの世界が平和であることに気づかせ、文章に広がりをもたせる。</p> <p>&lt;主発問&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>5の場面を自分だったらどのように書きますか？</b></p> </div> <p>&lt;補助発問&gt;書けない子への助言</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習で、今の世界を自分なりに表現してみよう。</li> <li>・ 自分が出てきてもいいよ。</li> <li>・ 「ちいちゃんへのお手紙」を書いて終わってもいいかもね。</li> <li>・ 教科書の中ですごく心に残ったところから考えてみてもいいかもね。</li> <li>・ 何を書いてもいいわけではなくて、これまでの学習をしっかり生かして書こう。</li> <li>・ どうしてそう考えたのか、教科書に書いてあることをもとにして書こう。</li> </ul> </div> <p>○ 評価基準</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① これまでの学習(特に5～7時)が生かされているか。          ② 本文に書いてあることをもとにして書いているか。(逸脱した内容になっていない。)          ③ 自分の意見をのべているか。</p> </div> <p>1 2 ○ グループごとの意見交流とする。違いやよさ【評価基準を満たしているもの】を見つけて、カードに記入させる。</p>
	深める	<p>6 自分の書いた文章を再考する。</p>

広げる	7 再考した文章を，全体に発表する。	5	○ 机間指導で，よい作品【評価基準を満たしているもの】を書けている子を選び，意図的指名をする。
-----	--------------------	---	---

(3) 評価

- これまでの学習や本文中に書いてあることをもとに，自分の生活や見聞体験，本などから得た知識を結びつけて，自分が考えた終末を文章にまとめることができたか。
- 友達と意見の交流をし，違いを比べたりよさを見つけたりすることができたか。

《板書計画》

《ワークシート》

<p>Blank writing area with vertical dashed lines for handwriting practice.</p>	続きを書くところ
	教科書の言葉

ちいちゃんのかげおくり「ワークシート」  
 (名前) ③  
 めあて

## 6 研究授業の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 昨年度までに作成したPISA型発問の正否を考え、またその発問に対する解答の評価がどうあるべきか、研修を積む必要を感じていたが、本年度授業研究の視点をPISA型読解力の「解釈」「熟考・評価」とそれらの評価のあり方に絞ったことで、評価に対する研究が深まった。
- ・ 限られた時数の中で、どのように情報の取り出し・解釈をおこなっていくか、またその評価のあり方についての検証ができた。(ワークシートの有効な活用・子どもたちのチェックカードなど)
- ・ 各担任が普段から授業実践をして研究授業に臨んでいるため、自分の実践と比べながら授業を参観することができるとともに、発問に対する児童の答え方についても、どう指導していくべきかわかった。
- ・ 国語の単元で扱う教材に関連する本を図書室から多数貸し出してもらったことにより、子どもたちの読書意欲が高まり、読書の幅も広がった。

### (2) 課題

- ・ 情報の取り出し、解釈、熟考・評価の際、まだまだ、根拠を本文から探してこない児童がいる。必ず本文に即して考え、今後も指導を継続していきたい。